OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

小樽商科大学

学園だより

小樽商科大学広報誌
vol.183
2018 SPRING

小樽商大
フォトコンテスト
入賞作品

● CONTENTS ●

学長挨拶…… 1
小樽商科大学同窓会 緑丘会理事長挨拶 …… 2
グローカルマネジメント副専攻プログラムについて 3
ブログ学生スタッフ・学園だより編集委員の募集‥ 4
危険な飲酒を防ぐために…… 4
学生何でも相談室・特別修学支援室…… 5
商大うたの輪まつりを開催…… 6
小樽笑店 夜桜ライトアップ…… 7
学生支援基金事業報告…… 7

（題字は和田健夫 学長）

ご入学
おめでとうございます

新入生諸君、ご入学おめでとうございます。教職員一同心よりお祝い申し上げます。

社会は、日々の生活のなかで蓄積される経験とそこから生み出される知恵や技術によって成り立っています。知恵や技術は人々に便利さ、富、幸福をもたらしてくれました。人々は、時には憎しみ合い、争い、大きな不幸に出会いながらも、知恵や技術の力でそれを乗り越えて何百年も生きてきました。

現代は、世界中の人、モノ、情報が容易に行き交い影響し合うグローバリズムの時代です。われわれの生活は、常に地球的な規模のなかで営まれているのです。さらにインターネットがあらゆるものを結びつけ、日々集積されるビッグデータを人工知能（ＡＩ）が分析し、人々の嗜好、行動、経済動向などを判断・予測する時代が到来しようとしています。多くの仕事・職業がＡＩに取って替わられ、新たなビジネスが次々と生み出されています。これは、社会のありかたを根本的に変えるかもしれません。

これからは、グローバリズムの中で生き抜き、社会の変化に柔軟に対応できなければなりません。そのためには、大学で、新しい知識・技能を学び、広い視野を身につけるとともに、新しいことにチャレンジする心、常に学び続ける意欲を失わないことが重要です。

小樽商科大学は、「幅広いスキルを持ちながら同時に一カ所を深く掘り下げる『Ｔ型人材』の育成」をモットーにしてきました。それらの知識を使い、他者と協働して課題に向かう意欲・力を育てること（実学教育）にも力を入れてきました。さらに、グローバルな視野のもとで、ローカル＝地域の視点から行動できる人材（「グローカル人材」）の育成という目標を新たに掲げ改革を進めています。

グローカル人材育成の一環として、本学 OB からの寄付金による返還の義務がない給付型の奨学金制度（佐野力海外留学奨励金）を創設しました。1 年次学生を中心に海外留学を支援しています。多くのみなさんに利用してもらいたいと思います。

小樽商科大学は、みなさんが成長するために必要な最大限の支援をします。学生生活を有意義に過ごしてください。

平成 30 年 4 月 3 日
小樽商科大学長
和田 健夫

小樽商科大学新入学生に対するメッセージ

公益社団法人　緑丘会
理事長　島崎 憲明

新入生の皆さん、小樽商科大学への入学おめでとうございます。同窓生を代表して心よりお祝い申し上げます。私も半世紀前に、皆さんと同じように希望に胸を膨らませて入学式に臨んだことを昨日のように思い出されます。

私の学生生活を振り返りますと、学生寮生活、応援団、バスケットボール部、ゼミ活動などを通して多くの事を学び、現在も続く生涯の友を得ることができました。小樽商科大学は、小樽の街と一体化した国立大学では唯一の社会科学系単科大学で、これは昔も今も変わりません。小規模ではありますが、創立以来 100 余年にわたりグローバルな人材を北海道はもとより全国に送り出してきました。国際的な場で活躍しているＯＢ・ＯＧも少なくありません。

大学で何を学び、何を得て巣立っていくのか、皆さんはどのようなプランを持っていますか？

実社会の経験をした先輩からの助言です。第一に、学問を修めることはもちろんのこととして、皆さんには国際的視点を持ち、日本国内はもとより国際的な動向にも強い関心を持って欲しいということです。最近は道内での就職を希望する方が増えているようですが、北海道の産業や経済の進展には、今まで以上に国際的な繋がりが必要です。道内で職を求める場合であってもグローバルな視点を欠くことはできません。第二は、緑丘での４年間に、勉学に加えて、これはという経験を積んで欲しい。スポーツでも文化的なことでも良いのです。夢中になって打ち込んだ経験が社会に出てから大きな自信になるはずです。

小樽商科大学には他の大学にない良さが数多くあります。一つだけ挙げるなら、小規模な単科大学が育む「学生、教職員、卒業生の強い一体感」です。この緑丘で培われた強い絆が社会に出た後も続き、財産となるはずです。
皆さんは今、真っ白なキャンバスの前に立っています。有意義な４年間を過ごし、自分自身の絵を思いっきり描いてください。

小樽商科大学同窓会　緑丘会について

小樽商科大学の同窓会である「公益社団法人緑丘会」は、1939年(昭和14年)に法人化され、本部を東京・池袋サンシャイン60ビル・57階に置き、全国に23の支部、会員4,600名余を擁しています。公益財団法人小樽商科大学後援会ともども母校の基盤向上のために、年間２千万円以上の規模で助成事業を行っております。
主な助成事業は次の通りです。

① 学生の社会人基礎力養成、就業力育成に関する普及、啓発を目的とした「キャリア形成支援企業セミナー」の主催
② 正課教育である「エバーグリーン講座」の運営支援
③ 国際的な視野に立つ人材育成を目的とした奨学金給付及び TOEIC の受験費用補助
④ 就職支援として就職アドバイザーの設置と就職活動資金の貸与等
⑤ 留学生の支援

グローカルマネジメント副専攻プログラムについて

グローカルマネジメント副専攻プログラムとは、地球規模（Global）な視点から、地域（Local）創生をリードする人材（『グローカル人材』）を育成する主専攻に加えて学ぶ副専攻プログラムで、2年生から所属することができます。このプログラムに参加している学生は、留学生とともに英語で専門科目（ビジネスや経済など）を受講したり、地域活性化プロジェクトのフィールドワークに参加したりしています。また、留学や海外研修に行く学生も多く、そのための財政支援も充実しています。

今回、このプログラムに所属する2名の学生にインタビューしました！

本プログラムの他にも、平成30年度以降入学の学生を対象に、4つの新しい副専攻プログラム（経済学、ビジネス法務、経営情報及びアカウンティング）を開始します。詳細については、入学後のオリエンテーション等で説明予定です。

三浦 晴華（4年）・商学科 ※学年は、平成30年3月時点

・オタゴ大学・マラヤ大学・バイロイト大学留学

● グローカルマネジメント副専攻プログラムに所属しようと思った理由

元々英語学習には力を注いでいましたが、商学系科目の履修が増えるにつれ、「ビジネスの知識を活かし、グローバルに活躍するキャリアを歩みたい」という思いに変わりました。そのため、『英語で留学生と共にビジネスを学べる』という点に強く惹かれ、プログラムを受けようと決意しました。

● プログラムで学んだこと、これから生かしたいと思うこと

ビジネスの専門知識に加え、国際感覚も学び得たと思っています。留学生との協働では、考え方の違いで苦労することもありましたが、理解しようと努めたことで異文化理解にも繋がりました。私が卒業後働く職場では、多国籍な人との交流の機会が多くあるため、ここで得た「異なる価値観や考えを受容する姿勢」は、必ず活きるスキルであると考えています。

● 新入生・在学生へのメッセージ

このプログラムでは、全て英語で行われる授業や、多国籍な学生との協働の機会が多くあるため、困難に直面する機会も多くあるかと思います。しかし、ぶつかった壁から逃げないでください。その壁と向き合い、乗り越えた経験は、必ず自分を成長させますし、自信にも繋がります。このような機会を最大限に活用し、有意義な4年間を過ごして欲しいと思います！

清友 一希（3年）・商学科 ※学年は、平成30年3月時点

・オタゴ大学留学

● グローカルマネジメント副専攻プログラムに所属しようと思った理由

私自身が、今日英語を話せるのは当たり前であり英語を使って何か他のこと（勉強や討論）をするということの方が圧倒的に重要になると以前から考えていました。また典型的な受験英語から自分の英語力を昇華させ、〝使える英語〟にしたいとも考えており、それが身近で実践できるこのプログラムに参加しようと思いました。

● プログラムで学んだこと、これから生かしたいと思うこと

やはり世界中には多様な価値観や文化をもつ人々がいて、彼ら彼女らと授業をともにするにつれて、自分自身の世界も広がりました。また非英語圏から来た学生の非常に高い英語力に衝撃をうけ英語学習のモチベーションもかなりあがりました。

● 新入生・在学生へのメッセージ

もう大学生なので、自分の時間をどのように使おうと個人の自由です。商学や経済学を英語を使って、更に深く勉強したい方にはこの副専攻プログラムはおすすめです。英語はあくまで何かを習得する際のツールに過ぎません。せっかくの大学生活なのでどんどん熱くチャレンジしていってください。

ブログ学生スタッフの募集

本学の公式ブログ「商大くんがいく！」は大学職員と学生スタッフが協同で運営しており、商大生活に役立つ情報を毎日更新中です！

取材活動や原稿作成が好きな方、教職員と一緒に大学の広報活動をしてみたい方は、是非ブログ学生スタッフになってみませんか？

興味のある方は、以下のメールアドレスにご連絡いただくか、LINE@ にご登録ください！

shoudaikun@office.otaru-uc.ac.jp
LINE@：@vnf6627v
（LINE の友だち追加→検索で参加してください）

学園だより 学生編集委員の募集

現在ご覧になっている本紙は春と秋の年２回発行しており、学生生活の様子などを発信しています。現在は職員が記事の内容を考えていますが、学生目線から大学のアピールしたいことを記事にしたいと考えています。大学の広報活動に携わりたい方や原稿作成が好きな方、職員と一緒に学園だよりを作りませんか？

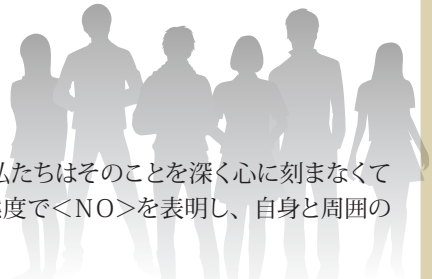
学園だよりは学内のほか保護者や同窓会等の手元にわたりたくさんの人に読まれることになります。自分が作った記事が形として残るのは達成感があると思いませんか？

興味がある方は下記連絡先までご連絡下さい。

活動時期：7月と1月の2か月間程度
応募方法：学生支援課学生支援係にご連絡ください。
○連絡先　ＴＥＬ　0134-27-5245
Email　g-shien@office.otaru-uc.ac.jp

保健管理センターからのお知らせ

危険な飲酒を防ぐために



平成24年、本学で飲酒事故があり、一人の若く貴重な命が失われてしまいました。私たちはそのことを深く心に刻まなくてはなりません。未成年飲酒や飲酒運転、飲酒の強要などの行為に対しては毅然とした態度で＜NO＞を表明し、自身と周囲の人たちの未来を守ってください。

未成年者は飲まない、飲ませない

こんな危険性が

→身体への影響：脳の機能低下や性腺機能障害、アルコール依存症が短期間で発症
→事故・事件のリスク：交通事故、転倒・転落、溺水のような事故にあったり、暴力行為などの犯罪に巻き込まれることも

STOP！アルコールハラスメント　ーしない・させないー

飲酒の強要や飲まない人を侮辱することは人権侵害です。命を奪うこともあります。以下にあるようなアルコールハラスメントは絶対にしない、させないようにしましょう。

- **飲酒の強要**：上下関係・部やサークルの伝統によるはやし立てなど心理的圧力をかけて飲ませること
- **イッキ飲ませ**：一気のみ、早飲みをさせること
- **意図的な酔いつぶし**：酔いつぶすことを意図して飲み会を行うこと、傷害行為にあたる
- **飲めない（飲まない）人への配慮を欠くこと**：本人の体質や意向を無視して飲酒を勧める、飲まないことをからかう、侮辱すること、アルコール以外の飲み物を準備しないこと
- **酔ったうえでの迷惑行為**：酔って絡む、悪ふざけ、暴言・暴力、セクハラその他のひんしゅくな行為

当センターではアルコールに関する DVD の放映と、「アルコールパッチテスト」を**6月中旬頃**に開催する予定です。（詳細は後日掲示等でお知らせいたします）みなさんのご参加をお待ちしています。

違法薬物のない学生生活のために

危険ドラッグはハーブ、お香のように用途を偽装して販売されたり、大麻は国外では規制がなく入手できる国もあるなど、薬物は意外と身近にあります。しかし依存性のある薬物は1回の使用でやめられなくなって再びその薬物を求めてしまい、健康も生活も破綻してしまいます。薬物には決して近づかないようにしましょう。

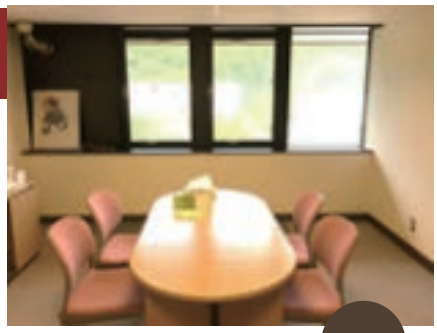
感染症に注意しましょう

昨年、一昨年と連続して4月に学内でインフルエンザ流行が起こりました。昨秋にワクチンを接種した人も効果が下がってくる時期です。外出後の手洗い、咳やくしゃみが出るときはマスクをして予防しましょう。新生活が始まって忙しくなる時期ですが、抵抗力を高めるためにバランスの取れた食事、十分な休養が必要です。

インフルエンザ以外にも麻しん（はしか）、水痘、流行性耳下腺炎など大学生の間でも流行することがある感染症があります。熱がある、発疹が出ているなどの時は無理して登校しないようにしましょう。

相談室を使いたいときにはどうすればいいの？

学生何でも相談室の利用方法



相談の例

・大学生活になじめない
・自分のあり方や性格について考えたい
・サークル・ゼミなどでの人間関係に悩んでいる
・勉強への意欲や目的意識がもてない
・卒業後にやりたいことが見つからない、等々

～悩みだけではなく、大学生活をより充実させるための相談も可能です～

相談方法

直接来ていただくことも可能ですが、予約者優先となりますので、できるだけ事前に電話、メールでの予約をお勧めいたします。なお、相談については守秘義務がありますので、相談者の承諾なく、内容が外部に報告されるようなことはありません。

特別修学支援室の利用方法

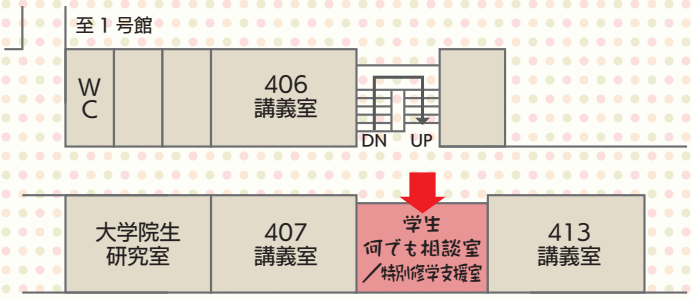
障がいのある学生については、入学前・入学直後から相談に対応し、必要な情報提供を行います。支援内容の決定にあたっては、障がいの内容と学生の成長を踏まえながら各部署と協議を行います。

障がいの有無が明確ではない場合であっても面談を行い、その学生が自身の「困り感」と向き合えるよう必要な支援を行いますので、まずは相談してみてください。

①利用学生からの相談 ▶ ②利用登録 ▶ ③支援希望内容に関する面接 ▶ ④支援計画の作成 ▶ ⑤関係教職員・部署との協議 ▶ ⑥日常的な支援・面接 ▶ ⑦支援内容の評価・点検

学生何でも相談室・特別修学支援室
（３号館４階）

電　話：0134-27-5241
メール：soudan@office.otaru-uc.ac.jp



商大うたの輪まつりを開催しました！

平成29年12月16日（土）に、生誕60周年を迎えた商大の学生歌、「若人逍遙の歌」を盛大に歌う商大うたの輪まつりが開催されました。
今回はイベント開催に携わった、実行委員会の佐藤七海さんにお話を伺いました！

1 イベント開催のきっかけ

入学式の日から、何度も耳にしてきた、というより、何度も歌ってきた「若人逍遙の歌」。部屋を薄暗くして肩を組んで歌うという風習に、当初はなかなか慣れませんでしたが、世代を超えてつながることができるような感覚がだんだん好きになっていきました。そんな若人逍遙の歌が、2017年、この世に生まれて60年、還暦を迎えるということを知りました。記念すべき年なのに、歌える人が少ないのは物寂しいと思い、これを機に歌に親しんでほしいという願いから、このイベントを企画しました。また、世代を超えたつながりを感じられる場となるよう、「商大うたの輪まつり」と命名しました。

2 当日の様子

遠方から足を運んでくださった方々や現役学生、そして緑丘会理事長の島崎様、「若人逍遙の歌」作曲者の宮内様、和田学長の三人のスペシャルゲストをお迎えして、会をスタートさせました。おいしい料理を囲んで交流し、第一部が開始。校歌をはじめ、計六曲の歌を歌いました。また、司会から「商大のうたクイズ」が出題され、会場は大いに盛り上がりました！明るい司会者は、会場の方から大好評でした。

そして、第二部は目玉企画「繋 -TSUNAGU- プロジェクト」の上映からスタート。「若人逍遙の歌」を現役がリレー形式で歌う動画です。続いて「北の一星合唱団」（H29年度緑丘祭のために結成した合唱団がこの日のために再結成）による合唱が披露されました。校歌と若人逍遙の歌の二曲を食堂内に響かせました。 そして締めはやはり、全員で肩を組んでの若人逍遙の歌です。会場がひとつになりました。

3 開催してよかったこと、思い出に残ったこと

会場に来てくださった方々の笑顔が見られたことです。当日が近づくにつれ不安も大きくなっていたので、素直に嬉しかったです。準備を一緒に進めてくれた委員にも感謝です。

また、「北の一星合唱団」も印象深いです。現役だけで歌う機会がなかなかないためか、歌っていて感動でざわっとしました。

欲を言えば、もっとたくさんの方に来ていただきたかったですが、若人逍遙の歌に、良い還暦祝いができたのかなと思います。協力してくださったすべての方に感謝します。

4 苦労したこと

「イベントでこんなことをやりたい！」と、当日に対するイメージはどんどん湧いて来たのですが、それを形にするのが難しく感じました。ものすごく大規模なイベントを考えていたので、どうしても現実味がないものばかり思いついてしまい、企画書も穴だらけ。周りの方々に迷惑をかけっぱなしでした。

準備期間では、人集めに苦労しました。「商大の歌」がメインのイベントだったため、なかなか興味をひけるものではありませんでしたが、歌が脇役になるのだけは絶対に嫌だったんです。そこだけはどうしても譲れませんでした。結果として、こんなわがままを言ってしまったせいで、情報宣伝では委員に大変な目に遭わせてしまいましたが…。

失敗は語りきれませんが、すべていい経験です。

5 新入生へのメッセージ

大学生活の中で、商大の「好き」をたくさん見つけてくれたら嬉しいです。それは、風景かもしれないし、友達かもしれないし、学食のごはんかもしれません。好みは人それぞれでいいと思います。せっかく過ごす4年間ですから、できるだけたくさん見つけてください。きっと一生の宝物になります。そのヒントになるのが歌なのかなと、この2年間で感じました。皆さんと一緒に商大の歌を歌えることを楽しみにしています。

小樽笑店主催　夜桜ライトアップ

こんにちは！小樽笑店です！

私たちのサークルでは小樽商大の桜並木をライトアップする『夜桜ライトアップ』のイベントを今年も開催することとなりました。このイベントは一昨年、昨年に続いて３回目の開催となります。桜が満開になるこの季節に綺麗な桜の前で友達と写真を撮ったりして、いつもの見慣れた小樽商大とはひと味違った雰囲気の“夜桜”を堪能してみませんか？

また、夜桜のライトアップだけではなく私たちの運営するブースも用意していますので気の合う仲間と一緒に授業が終わった後などに是非お立ち寄りください☆

本イベントの日時や場所など、より詳しい情報は小樽笑店のSNS【Twitter（@otarushoten）、Facebook（@otarushoten）、アメーバブログ（http://ameblo.jp/otarushoten）】において随時更新していきますので、そちらも是非ご覧頂けるとさらにイベントをお楽しみ頂けるかと思います！

皆さんのお越しをお待ちしております！

学生を支援する２つの基金【事業報告】について

○教育振興基金について

皆様からご寄附をいただきました教育振興基金につきまして、平成29年度は以下の事業を実施しております。なお、教育振興基金の事業実績額は平成30年度の決算確定後にホームページ等でお知らせします。

■平成29年度

事業名	実施予定額
（1）学生の正課・課外活動への支援事業	
1．課外活動遠征補助金	400,000
2．学外学修推進のための地域連携ブリッジ教育プログラム（小樽市等と連携して学外学修を行うプログラム）学修奨励金	492,000
（2）学生の国際交流活動への支援事業	
1．グローバル人材育成のためのTOEFL受験料補助事業	300,000
2．事情科目（留学前後の授業と海外研修（スタディーツアー等）を組み合わせた科目）参加者のための奨学金	2,000,000
3．新規派遣プログラム「シニアイヤーアブロードプログラム」（4年次生を対象とする約２か月間の海外語学研修）参加者のための奨学金	500,000
計	3,692,000

○修学支援基金について

皆様からご寄附をいただきました修学支援基金につきまして、平成29年度は以下の事業に使用させていただきました（平成29年度より事業開始）。

■平成29年度（実績）

事業名		実施予定額
平成29年度前期分授業料免除特別枠事業	平成29年８月決定分（対象者９名）	502,260
平成29年度後期分授業料免除特別枠事業	平成29年12月決定分（対象者９名）	502,260
計		1,004,520

※修学支援基金による授業料免除特別枠事業は、各期における授業料免除申請者のうち、家計困窮度が基準を満たしているが免除には至らなかった者を対象に審査を行い、各期の授業料の1／4の額を援助する事業です。

編集後記

本号では、学生をはじめ多くのみなさまに学園だよりの作成にご協力いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。募集情報も各種掲載しておりますのでご興味のある方はご連絡下さい。それでは、次号もお楽しみに。

（学生支援課）

小樽商大の新鮮な情報を毎日発信！

ブログ「商大くんがいく！」

商大若手職員と学生がタッグを組んで作っている「商大くんがいく」ブログでは、商大生の活躍はもちろん、学内のさまざまな旬のトピックスがご覧になれます。

http://www.otaru-uc.ac.jp/shoudai-kun/

学園だより vol.183（平成30年度春号）平成30年3月16日発行

■〒047-8501 小樽市緑３丁目５番21号 国立大学法人小樽商科大学 学生支援課学生支援係 TEL：0134-27-5245 E-mail：g-shien@office.otaru-uc.ac.jp